

# 海洋理工学会平成14年度秋季大会

[期日] 平成14年10月30日(水)・31日(木)

[会場] 海洋科学技術センター東京連絡所セミナー室

(東京都港区西新橋1-2-9 日比谷セントラルビル10階)

[主催] 海洋理工学会

10月30日(水) 13:20 - 17:10

## 13:20~14:10 論文賞記念講演

A1 3ビーム方式の船舶搭載型ADCPによる海流測定 道田 豊氏(東大海洋研)

## 14:10~15:00 業績賞記念講演

A2 2000m級投棄式塩分水温プロファイリングシステムXCTD IIの開発 須山 哲氏(鶴見精機)

## 15:10~17:10 一般講演

G1 XCTD IIのCTDとの比較試験結果

○渡邊朝生(中央水研)内田 裕(JAMSTEC)関本道夫・鈴木重教(鶴見精機)

G2 次世代ドップラー流速プロファイラ

○小梨昭一郎(アレック電子)Rune Hansen (AANDERAA)

G3 無人大気海洋観測艇「かんちゃん」による清水-大槌無人観測

○千賀康弘(東海大海洋)鈴木隆生(CREST)植松光夫(東大海洋研)

G4 EOF解析を用いた連続衛星画像データの欠損域の復元法

青野 公・○諏訪 純(千葉大工)

G5 折戸湾での基礎生産の時系列観測

○築地由貴(環境科技研)堀内智啓・千賀康弘(東海大海洋)

G6 北西亜寒帯太平洋 KNOT 点で観測された秋季パッチブルームとそのインパクト

○堀内智啓・千賀康弘・加藤義久・守屋 洋(東海大海洋)

10月31日(木) 13:20 - 17:10

## シンポジウム 「干潟・藻場造成技術としての数値モデルの有用性」

13:20~14:00

S1 基調講演「沿岸環境修復技術における数値モデルの利用の可能性について」

中田喜三郎(東海大海洋)

14:00~14:40

S2 水質浄化機能の定量化手法としての干潟生態系モデルの検証

畑 恭子(国土環境)鈴木輝明(愛知水試)

14:50~15:30

S3 アサリ生残率モデルを利用した貧酸素化海域における浅場造成地盤高の決定

今尾和正(日海生研)鈴木輝明(愛知水試)

15:30~16:10

S4 リセプターモードモデルを利用した干潟造成適地の選定

市川哲也・桃井幹夫(シーティーアイ) 鈴木輝明(愛知水試)

16:10~16:50

S5 生態系モデルを利用した浅場造成に係る藻場育成環境と藻場機能の予測評価

相馬明郎(富士総研)中田喜三郎(東海大海洋)

16:50~17:10 総合討論 司会 中田喜三郎(東海大海洋)

17:20~18:30 懇親会